

<b>1 学校教育目標</b>	<b>2 本年度の重点目標</b>
三根中学校に誇りをもつ生徒を育てる ～自主、自律、寛容の態度形成を通して～	①学習指導の充実 ②自己指導能力の育成 ③道徳の時間の充実 ④職員「働き方改革」の意識を高める

達成度 A:ほぼ達成できた  
B:概ね達成できた  
C:やや不十分である  
D:不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価								学校関係者評価委員会から	
①学習指導の充実								学校関係者評価委員の評価 (A～Dで記入)	意見や提言など
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策		
教育活動	●学力向上	指導方法の改善	①学習状況調査の正答率において、県平均を上回る。 ②めあての提示、まとめにおいてステップ3のレベルで授業づくりを目指す。 ③家庭学習の充実(2時間以上が5割以上)と質の向上(考える学習)を図る。	①指導方法の改善(中1TTを含む)を通して、きめ細やかな指導と学び方の指導に努める。 ②実効ある校内研究会の運営をする。 ③授業と家庭学習のつながりを意識した授業づくりを行う。	A	①12月の学習状況調査の正答率は、1、2年ともにすべての教科で県平均を上回っていた。また、2年生は経年変化を見ても大きく伸びていた。 ②校内研究会等を利用して、教師の指導力向上に努めた。 ③家庭学習で予習復習をしている生徒は76%以上であった。	①引き続ききめ細やかな指導に努める。 ②授業研究会等を利用して、教師のさらなる指導力向上に努める。 ③授業での振り返り等を活用し、家庭学習の質の向上に努める。	A	・本年度3年生の高校進学の結果が、全員志望校合格という成果は見事である。
②自己指導能力の育成								学校関係者評価委員の評価 (A～Dで記入)	意見や提言など
教育活動	●志を高める教育	①生徒会活動を通じた企画運営力の育成 ②ボランティア精神の高揚	①生徒会活動において、全校生徒が参加できる活動を企画・運営し、活躍の場を設定する。 ②「自主・自律・寛容の態度が向上した」という生徒を90%以上にする。	①総会議案書をもとに各部委員会の部長に対し、計画的活動を企画運営させるように支援する。 ②ボランティア活動の充実、拡大を生徒のアイデアをとり入れつつ組織的に進行。	A	①各担当の職員と連携し、生徒の支援ができた。生徒会活動に積極的に取り組んでいる生徒が88%であった。 ②ボランティア活動が拡大した。「自主・自律・寛容の態度が向上した」生徒が約90%であった。	②学校外も含めさらなるボランティア活動の充実、拡大を生徒主体で取り組むよう支援する。	A	・生徒及び職員の努力が評価できる。
教育活動	●いじめ問題への対応	早期対応の体制づくり	①Q-Uアンケートでの満足度を80%以上にする。 ②「三根中に入学してよかった」という生徒を90%以上にする。	①日常生活の観察や生活アンケート等を通して生徒理解に努め、未然防止及び早期対応に努める。 ②教育相談、SC、保護者との連携を図る。	A	①生活アンケートを毎月行い、生徒からの不安や悩みを聞くことで、いじめの予防・早期解決ができた。 ②95%の生徒が三根中に入学してよかったと回答している。継続して生徒の安心のため保護者と連携協力が必要である。	①月1回生活アンケートの実施により早期に対応する。	A	・いじめ問題の発生については早期対応により解決されている。
教育活動	○教育相談	不登校生徒等の支援体制構築	①保健室と担任等との情報交換を密に行う。 ②SC、SSW等の有効活用を図り、不登校等生徒を減少させる。	①保健室の利用状況及び出席状況を随時把握し、適時対応に努める。 ②-1 「教育相談だより」を発行し、SC相談についての周知を図る。 ②-2 SC、SSW等と連携し、学習保障に努める。	B	①気になる生徒について、担任と教育相談担当が情報交換を密に行うことで、SCとの面談へつなげることができた。 ②SC、SSW等を活用することで医療機関等へとつなげることができた。	①情報交換を密に行い、連携を図る。	B	・継続的な取り組みを期待する。
教育活動	○小中連携	小中の相互理解に基づく教育の活性化	・小学生が中学校に対してあこがれをもつように、中学生に活躍の場を与える。小学校と協力して活動できたという生徒を85%以上にする。	①小中連携挨拶運動や小学校体育大会へのボランティア参加など、地域貢献の機会を設ける。 ②中学校の行事に小学生が参加する場を設定する。	A	①小中連携挨拶運動を年2回実施した。また小学校体育大会へのボランティア活動を行えた。地区の体育大会にボランティアとして参加し地域貢献ができた。 ②体育大会は、天候不順だったが小学生の参加種目を実施した。文化発表会には、多くの児童が参観にきた。	①挨拶運動は、年3回に増やすことも検討してよい。	A	・小学校へのボランティア活動等、積極的な交流が見られ、成果をあげている。
③道徳の時間の充実								学校関係者評価委員の評価 (A～Dで記入)	意見や提言など
教育活動	●心の教育	道徳性を育成する多様な指導方法の開発	・「道徳」の時間は大切だという生徒を80%以上にする。	①教科書を活用し、道徳性を刺激する。 ②全職員が授業実践を行い、ローテーション道徳により、授業の改善と省力化を図る。	A	①授業の中で疑問や質問、反論の時間を設定し、生徒が道徳的価値に気づき意欲の高まりにつなげることができた。85%の生徒が「道徳」の時間は大切だと回答した。 ②教材研究の時間が確保でき、道徳の授業実践に確実性が出た。道徳の評価を学年で協議することができた。	①全職員による道徳公開授業の実施。 ②TT授業の導入を検討する。	A	・全職員による道徳の授業への取り組みが評価できる。
④職員「働き方改革」の意識を高める								学校関係者評価委員の評価 (A～Dで記入)	意見や提言など
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進	・教職員の時間外勤務を1か月当たり65時間以下にする。	①校務サーバー上で各分掌が情報共有を行いやすいように、フォルダ構成を工夫する。 ②教職員の勤務時間を確実に把握するとともに、特定の教職員に業務が集中しないようにマネジメントを行う。	A	①使用していないフォルダについては次年度に向けて廃止、統合を行った。 ②業務の割り振りを行い、年間の時間外勤務平均を45.0時間に抑えることができた。	①フォルダ構成の継続的な見直しを行う。共有する情報の精選を行う。 ②中学総体までの時間外勤務の抑制を図る。	A	・教職員の時間外勤務については、65時間を大幅に下回り、成果が見られる。
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目								学校関係者評価委員の評価 (A～Dで記入)	意見や提言など
教育活動	●健康・体づくり	健康に関する自己管理能力の育成	①朝食摂取率を100%にする。 ②自己管理能力を身につけさせる。	①家庭科、特別活動や給食指導を通して、体づくりの基本である食育指導に努める。 ②-1 各疾病の予防講座開設や関係資料を配布する。 ②-2 健康診断の結果をもとに日々の健康状態を把握する。	A	①朝食摂取率が98.7%であった。今後も授業や給食の時間を通して、食生活の大切さを理解させたい。 ②定期の健康診断や保健だよりを通して、自分自身の健康に関心をもち、自らの健康を守るようになってきた。	①PTAと連携し、朝食摂取率100%に取り組む。	A	・朝食摂取率98.7%の成果は素晴らしい。家庭の協力の成果だと思う。

**4 本年度のまとめ・次年度の取組**  
 本校の生徒でよかったと思う割合が生徒、保護者共に90%を超えている。また、学力向上、志を高める教育、道徳の授業等でも目標が達成できた。本年度の重点目標への取り組みが、学校教育目標の実現につながった。  
 来年度の課題は、①教育相談活動の充実と広報、②道徳の授業の多様な指導方法の開発、③働き方改革と教育の充実の両立である。

●は共通評価項目、○は独自評価項目